

ある消費者は各年の所得のすべてを X 財と Y 財に支出してその年に使い切るものとしてします。この消費者の効用関数は、 $U = XY$ (X:X 財の消費量、Y:Y 財の消費量) で示され、今年の所得は 100 で効用最大化行動を行います。

この消費者は、今年 X の価格が 4、Y 財の価格が 3 の地域 A に居住していましたが、来年は X 財の価格が 1、Y 財の価格が 12 の地域 B に転居することになります。

このとき、来年において今年と同じ満足度 (効用) を得るためには、所得の変化分をいくくらにする必要がありますか。

1. 50 減少 2. 25 減少 3. 0 4. 25 増加 5. 50 増加

(国家総合職 改題)